

### 【西野様のご講演に関するご感想・ご意見（一部抜粋）】

- 米欧中日など、世界各国の政策や取り組みがよくわかった。
- 今迄断片的に聞いていた情報が繋がり理解を改めることができた。
- 内容が盛りだくさんだったので、分割して各部の詳細も聞いてみたい。
- LCA を考慮した議論、政策をもう少し聞きたかった。
- 次世代への具体的な構想が聞きたい。
- 国として車の電動化に対し、危機感・期待感を持って実効的な対策をとっていることが良く分かった。
- LIBで米国がニッケルフリーの方針を打ち出していることに驚いた。
- 日本は、海外と比較してグリーン戦略の進捗はどうか？また課題解決するにはどうすれば良いか？
- 報道では欧米の政策に振り回されているような印象があったが、経済産業省が電池資源の問題や電池産業の空洞化についてまで考え方をしっかり持っておられて安心した。
- 世界と日本が目指しているEVの取り組みがよくわかった。地域社会にむけた小型EVを20年前から提案してきたので、漸く本格的にシフトする時期が来たと嬉しくなった。導入補助金など引き続きしっかり出してほしい。
- Well to Wheelの話があったが、日本の場合は火力発電がマージナル電源なので、BEVのみが普及すると、逆にCO2排出量が増加する事をご存知かと思う。日本はエネルギーを再生エネルギーにするのか、または別の手段を取るのか、その辺りの国の考え方をもう少し聞きたかった。
- CASEについては、ハード面からインフラ、リユース、リサイクルまで全体が俯瞰されていて勉強になった。とはいえ、実現可能性を考えると少し疑問を感じた。充電インフラにせよ自動車燃料にせよ課題山積で絵に描いた餅に思えた。国として蓄電池や資源を海外から調達する情勢が変わらなければ不安定は変わらないと感じた。
- 経産省のカーボンニュートラルに対する考え方とその取り組みのあらましを理解することができたが、課題として取り上げられていた事項や、これまでの経産省の会議で課題として取り上げていた事項について現在どこまで対応がされているのか、その点がよくわからなかった。
- 技術で先行して初期の市場シェアを確保しても、その後のコスト競争でシェアを奪われるという話があった。中小企業の立場ではシェア拡大期に資本力の差でコスト競争に負けるということも多々有る。シェアが海外に奪われている状況下の場合には、国内同業種の事業統合を促すような施策があっても良いのではないかと思う。

### 【岩田様のご講演に関するご感想・ご意見（一部抜粋）】

- 社会ビジョンと手段選択の理由と実証の解説が非常に簡潔明快でした。
- レジリエンスまで含めて非常に現実的かつ期待できる内容をご紹介いただいた。
- 様々なビジネスモデルの試行が素晴らしい、社会インフラへの早期実装に期待したい。
- 電動車だけの世界になったとき、電源インフラ側をどう考えるか。
- 電池への課金方法で使われ方をコントロールできるというデータは参考になった。
- バッテリー充電回数と寿命データについてももう少し知りたい。
- 小型モビリティの EV 化の状況を 2 輪の他メーカを交えて進めており、電池を使い倒す戦略が良いと思った。
- 交換型バッテリーの出口戦略に関して一步先を進んでいて勢いを感じた。ただし、本筋の EV 車が交換式電池となると別の問題があり、個人的には難しいと考えている。
- 電気のバケツリレーというコンセプトで社会課題の解決につなげていく事業化センスに大変驚愕した。コンセプト、拡張性、リーダーの熱意・リーダーシップ全てにおいて感銘を受けた。
- 電池の載せ替えシステムは、他社の車にも提供されるか？同じタイプの偽物が出ると困ることはよくわかるが、違う種類の電池システムが出回るのも利用者は混乱してしまうので、ホンダが他社の小型電動車両を全て掌握する事になるのか？新規参入もしくは他の電動バイクメーカも仲間に入れて貰えるのか？
- 全製品、企業活動を通じたカーボンニュートラル実現に向けた事業内容は非常に興味深かった。中でも、実際に ASEAN や避難地域等に訪れ実証検証をされている点に感銘を受けた。バッテリーシェアリングが可能な小型モビリティや製品が与える社会全体へのインパクトは計り知れないと感じた。
- バッテリー課金システムはよいアイデアだと思うが、バッテリーを使い倒す（生涯利用率を上げる）という考えは経済論理で言えば当然正しいが、高容量 LIB では寿命性能がまだまだついていけない領域ではないかと思う。再エネの蓄電用途（事業用であれ家庭用であれ）でさえ、LIB の生涯充放電電氣量に対して、LIB 価格が採算ラインに乗らない現状だと思う。ご講演でもあったように使用する SOC を顧客が狭めてくれればよいが、それなら、東芝 SCIB のような長寿命高出力電池やハイブリッドキャパシタのような低容量だが高サイクル寿命のものが向いているのではと思った。
- 自動車の枠を超えて、リサイクルや災害対策まで含めた大きな視点で考えている事に、スケールの大きさを感じた。質問していた人もいたが、自分もバッテリーを交換するビジネスが受け入れられるか、気になった。重量物なので、交換の手間と、劣化する使用方を好まない人が、特に日本は多いような気がした。
- 電池パックという概念が非常にわかりやすかった。昔 PC 用に米国で作られたスマートバッテリーの規格を思い出し、今後の戦略が重要だと感じた。自動車にも適用できれば、電池のコストが抑えられる。また、内蔵電池の詳細についてより深く知りたい。

【恩田様のご講演に関するご感想・ご意見（一部抜粋）】

- 商用車の位置づけや取り組みを知ることができ、貴重な機会でした。
- 大型車ならではの電動化の難しさがある中で、積極的な取り組みは参考になった。
- 大型車のカーボンニュートラルの取り組みに関し、ふだん耳にしなかったのが興味を持てた。自動走行はトラックが早そうなので先にこちらの技術が優先されるだろう。
- 商用車のCO<sub>2</sub>への影響力は大きく、電動車の普及は不可欠であること、ゼロエミッションという観点ではEVとFCEVに限られることなどよく理解できた。
- 800Vのメリット解説が詳しく聞きたかった。
- 商用車の燃費が大型のものとなると数km/lレベルである事を知らなかった。生涯走行距離が長いことを考えれば、電動化等でのCO<sub>2</sub>削減の与える効果は大きいと感じた。
- 乗用車より市場規模が小さく、技術開発上も、事業性上もの難易度の高い商品開発になるが、環境に対する負荷は圧倒的に乗用車より高く、挑戦的だが重要な開発である。
- マーケットが小さく独自の電池システムを開発設計できない理由はわかるが、物流にとって必須なものだけに頑張っていたきたい。
- 商用車における電動化とカーボンニュートラル戦略について、大変興味深かった。電動化へは技術的、ビジネス/インフラ的な壁がある中で、ダイムラー社との体制で押し進める戦略は大変勉強になった。
- 乗用車に対して燃費が悪い商用車に対して、電動化による燃料コストの悪化をどのように対策していくのかが気になった。物流の根幹を担っている商用車の今後の発展に期待している。
- 乗用車と商用車の違いをよく理解できた。距離を走ってなんぼの商用車の場合は、脱炭素の時代において、これまでの部品と異なる電池について互換性のあるものにして、耐久性のあるFCまたはHEVの商用車を試作するしかないと感じた。合成燃料などが廉価で製造できる時代があると考えているので、内燃機関の技術だけは維持していただきたいと思った。
- 大型トラックのCO<sub>2</sub>排出量は最悪な状況で乗用車の100倍と聞いて、長距離運転でもあるため、1番優先度を上げて解決しなければならない課題だと思った。航続距離と利便性を考えると、FCEVが有力視されているかと思うが、非接触充電なども含めて、最適なトラック開発を期待している。
- 商用車は稼働率が求められる点で航続距離・充電時間の観点からEVではなかなかユーザーの期待に応えられずに普及が進まない現状だと思う。一方で、カーボンニュートラルの政策もありEV化がこれから進んで行くようにも思う。また、ドライバー不足や労働環境改善の点では自動運転も今後普及していくのではないかと期待している。次回機会があれば是非商用車の自動運転に関する取り組みを紹介してほしい。

#### 【質疑応答に関するご感想・ご意見（一部抜粋）】

- 視点や考え方の違いによる議論があり、なるほどと思わされ面白く聴講した。
- 可搬型（脱着型）電池のニーズ議論について、どこまで広がるか楽しみになった。
- 中国政府の政策、中国の市場動向は、市場規模が大きいだけに無視できない。日本の産業保護と生き残り戦略、難しい舵取りになりそう。
- ICE、電動それぞれの利点、欠点、適材適所という考え方は非常に参考になった。
- 災害時の電力供給・自力での確保の普段からの必要性に関して、多角的な検討希望。
- EV化を促進するためには、インフラの整備および規格の統一、そして電池の進捗の重要性を再認識した。
- EVの Well to Wheel は国によって事情が異なる部分は悩ましい課題だと思った。
- 災害時における電気の供給や内燃機関発電機の議論は興味深かった。すぐに結論はないとしてもどのように備えておくべきか考える必要があると感じた。

#### 【自由記述欄（一部抜粋）】

- 単なる一般的な知識だけでなく、その背景や裏側も紹介があって、理解がより深まった。
- 国の規制の状況や業界の開発動向を把握するのに非常に良い機会だと思う。
- 国、大学、企業、幅広い分野の方々を集めて、論しているため、とても素晴らしいシンポジウムだと思う。単にEVだけではなく、エネルギー、リサイクル、モビリティ、それらを議論して、新しいライフスタイルが、このシンポジウムから生まれることを期待している。
- インフラの整備および規格の統一、そして電池の進捗の重要性を再認識した。今後、誰がいつまでに具体的にどのような対策を取り解決しようとしているのか知りたい。
- 講演者の所属する会社の「新たな戦略」、「直面する問題点」などが具体的に話して頂けるので非常に参考になる。
- EV車は分散エネルギーとして、またストレージとして必要なソリューションと考えると、インフラ整備の在り方や、消費者が関心をもってEV車を購入できるようなシステムを構築していきたい。
- 全般的に期待以上の充実(e.g.実際のデータの提示があった)した内容だった。
- 欧米の動向から実際の開発内容まで幅広い範囲をカバーした内容で大変参考になった。